化学物質等安全データシート(MSDS)　(6−1)

[混合物質　(塗料用)]

整理番号 :MADS−M101118
作 成 日:2010年11月18日
改 訂 日

1、化学物質等及び会社情報

製品名	オール·マイティ　(主 剤)
会社名	株式会社　三都
住所	京都市南区吉祥院嶋野間詰町５７番地
担当者	諸本　和己
電話番号	075-671-8719
製品の種類	湿気硬化型シリコン·アクリル樹脂塗料用硬化剤
用途と使用上の制限	各種施設滑り防止塗装用

2、危険有害性の要約

[GHS分類]

引火性液体	区分 2	
急性毒性 (経口)	区分 外	
急性毒性 (経皮)	区分 外	
急性毒性(吸入·蒸気)	区分 4	
皮膚腐食性·刺激性	区分 2	
眼損傷性·眼刺激性	区分 2B	
呼吸器感作性	分類できない	
皮膚感作性	分類できない	
生殖細胞変異原性	区分 2	
発ガン性	区分 2	
生殖毒性	区分 2	
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分 1	·中枢神経系·呼吸器·肝臓·脾臓
特定標的臓器/全身毒性(反複暴露)	区分 1	·中枢神経系·肝臓·腎臓
呼引性呼吸器有害性	区分 外	
水生環境有害性 (急性)	区分 3	
水生環境有害性 (慢性)	分類できない	

[GHSラベル要素]　[絵表示]

危　険

[危険有害性情報]
·引火性の高い液体及び蒸気

·吸入すると有害
·皮膚刺激
·眼への刺激

·生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
·発ガンのおそれの疑い
·臓器の障害·中枢神経系·呼吸器·肝臓·脾臓

·長期にわたるまたは反復ばく露による臓器の障害·中枢神経系·肝臓·腎臓

·水生生物に有害

[注意書き]
《予防策》
・容器を密閉しておくこと。
・熱/火花/裸火/高温体のような着火源から遠ざけること・禁煙。
・耐熱手袋/保護眼鏡/保護マスク/保護面/保護衣を着用すること。
・容器を接地すること/アースをとること
・防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
・火花を発生しない工具を使用すること。
・屋外または換気の良い場所のみで使用すること。
・保護手袋を着用すること。
・取扱い後はよく洗うこと。
・使用前に取扱説明書を入手すること。
・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
・指定された個人用保護具を使用すること。
・この製品を使用する時に飲食または喫煙をしないこと。
・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
・環境への放出をさけること。

《応急処置》
・火災の場合:炭酸ガス、泡または粉末消火器等を使用して消火すること。
・皮膚に付着した場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと/皮膚を流水・シャワーで洗うこと。
・気分が悪い時は、医者に連絡すること。
・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医者に連絡すること。
・目に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
取扱った後、手を洗うこと。特別処置が緊急に必要である。
・暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。

《保管》
・涼しい所/換気の良い場所で保管すること。
・施錠して保管すること。

《廃棄》
・内容物/容器を都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3、組成・成分情報

[単一化学物質・混合物の区別]　　混合物

[成分及び含有量]

成　分　名	含有量%	CAS No	備　考
アクリル樹脂	—		
ポリエチレン樹脂	—		
ウレタン樹脂粉末	—		
アルキルシクロヘキシン	—	64742－48－9	
イソブチルアルコール	—	78－83－1	
酢酸エチル	—	141－78－3	
酢酸n－ブチル	—	123－86－4	
酢酸メトキシブチル	—	4435－53－4	
シクロヘキサノン	—	108－94－1	
二酸化ケイ素	—	112926－0008	

4、応急処置

[吸入した場合]
・蒸気、ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
　気分が悪い時には、医師に連絡すること。
・蒸気、ガスなどを大量に吸い込んで、気分が悪くなった場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。
・呼吸が不規則か、止まってる場合には人工呼吸を行う。
・直ちに医師の手当てを受けること。
[皮膚に付着した場合]
・付着物を布にて素早く拭き取る。
・汚染された衣類をとりのぞくこと。
・大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して充分に洗い落とす。溶剤・シンナーは使用しないこと。
・外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
[眼に入った場合]
・直ちに大量の洗浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
　まぶたの裏まで完全に洗うこと。
・直ちに医師に連絡すること。
[飲み込んだ場合]
・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
・嘔吐物は飲み込ませないこと。
・医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5、火災時の措置

[使用可能消火器]
・炭酸ガス消火器
・泡消火器
・粉末消火器
[消火方法]
・適切な保護具(耐熱性着衣など)を着用する。
・可熱性のものを周囲から素早く取り除く。
・指定の消火器を使用すること。
・高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。
・消火活動は風上より行う。

6、漏出時の措置

[人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置]
・作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
・周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
・付近の着火源、高温体および付近の可熱物を素早く取り除く。
・着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
[環境に対する注意事項]
・河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。
[封じ込みおよび浄化の方法・機材]
・漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。
・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
・衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
・乾燥砂、土、その他の不燃性なものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

7、取り扱いおよび保管上の注意

[取り扱い上の注意]
・換気の良い場所で取り扱う。容器はその都度密封する。
・周囲で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
・工具は火花防止型のものを使用する。使用済みウエス、塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまで水に漬けておく。
・皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入らぬよう保護具を着用する。
・取扱い後は、手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋などの汚染保護具を持ち込まない。
・密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を付けて作業すること。
[保管上の注意]
・日光の直射を避ける。風通しの良いところに保管する。　火気、熱源から遠ざけて保管する
・盗難防止のために施錠保管する。
・子供の手の届かないところに保管する。

8、暴露防止及び人に対する保護措置

管理濃度・許容濃度

成分名	管理濃度	許容濃度
アクリル樹脂		
ポリエチレン樹脂		
ウレタン樹脂粉末		
アルキルシクロヘキシン		
イソブチルアルコール	50ppm	50ppm
酢酸エチル	400ppm	400ppm
酢酸n－ブチル	150ppm	150ppm
酢酸メトキシブチル		
シクロヘキサノン	25ppm	25ppm
二酸化ケイ素		

[設備対策]
・取扱設備は防爆型を使用する。
・排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
・液体の輸送、汲み取り、撹拌等の装置についてはアースをとるように設備すること。
・取扱場所の近くには、高温、発火源となるようなものが置かれないような設備とすること。
・屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用する等作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。
・タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付けること。
[呼吸器の保護具]
・有機ガス用防毒マスクを着用する。
・密閉された場所では送気マスクを着用する。
[手の保護具]
・有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
[目の保護具]
・取扱いには保護メガネを着用すること。
[皮膚及び身体の保護具]
・取扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。
[その他]
・静電塗装作業を行う場合には、帯電防止服、静電靴を着用する。

9、物理的および化学的物質

・性状・状態	液体
・色	白濁色
・臭い	溶剤臭
・沸点	77．0℃～126．0℃
・引火点	－4．0℃
・爆発範囲	1．7%～11．5%
・蒸気圧	Pa
・蒸気密度	情報なし
・比重	0．96±0．02
・溶解度	水に難溶　有機溶剤に易溶
・n－オクタノール/水分配系数	データなし
・自然発火温度	415℃
・分解温度	情報なし

10、安定性および反応性

安定性　　常温付近では危険な反応はしない。

12、環境影響情報

・生態毒性　:情報なし
・残留性・分解性　:情報なし
・生態蓄積性　:情報なし
・土壌中の移動性　:情報なし
漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与えるおそれがあるので、取扱いには注意する。
特に、製品や洗浄液が、地面・川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13、廃棄上の注意

残余廃棄物
・廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約(マニフェスト)をして処理をする。
・容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
・廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律、関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。
・廃塗料などを焼却処理する場合には、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。または焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。ただしダイオキシンなどの有害ガスが発生するおそれがある場合には許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び処理すること。
・特別管理産業廃棄物(廃油)に該当するので、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

汚染容器および包装
・空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
・許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

14、輸送上の注意

・取扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。
・内容の漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

国内規制
・国連番号　1263
・指針番号　128
・陸上輸送　消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。
荷造り人は運送者に運搬注意書(イエローカード等)を交付する。
・海上輸送　船舶安全法に定められるところに従うこと。
・航空輸送　航空法に定められるところに従うこと。

国連規制
・国連番号　1263
・国連輸送名　塗料 (PAINT)
・国連分類　クラス3 (引火性液体)
・容器等級　容器等級 Ⅱ

15、適用法令

・消防法　:危険物第四類 第一石油類
・労働安全衛生法　:危険物(引火性の物)
・有機溶剤中毒予防法　:第二種有機溶剤
・化学物質管理促進法　:該当しない

16、その他の情報

参考文献
・MSDS用物質データベース(日本塗料工業会)
・製品評価技術基盤機構「GHS分類結果」
・危険防災救急便覧
・GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック(混合物・塗料用) (日本塗料工業会)

注 意
本データシートは、作成時または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。
また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。
本製品を当社が認めた材料以外のものと混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。

11、有害性情報

成分の健康有害性情報(危険有害物質を対象)

	急性毒性〈経口〉	急性毒性〈経皮〉	急性毒性〈吸入蒸気〉	皮膚腐食性・刺激性	眼損傷性・眼刺激性	呼吸器感作性	皮膚感作性
アクリル樹脂							
ポリエチレン樹脂							
ウレタン樹脂粉末							
アルキルシクロヘキシン							
イソブチルアルコール	区分5	区分5	区分外	区分2	区分2A	−	−
酢酸エチル	区分外	区分外	区分外	区分外	区分2B	−	−
酢酸n−ブチル	区分外	区分外	区分3	区分2	区分2B	−	−
酢酸メトキシブチル							
シクロヘキサノン	区分4	区分3	区分3	区分2	区分2A	区分外	区分外
二酸化ケイ素							

	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性	標的臓器〈単回暴露〉	標的臓器〈反服暴露〉	呼引性呼吸器有害性	水生環境毒性〈急性〉	水生環境毒性〈慢性〉
アクリル樹脂								
ポリエチレン樹脂								
ウレタン樹脂粉末								
アルキルシクロヘキシン								
イソブチルアルコール	区分外	−	区分外	区分3	区分外	区分2	区分外	区分外
酢酸エチル	区分外	−	−	区分1	−	−	区分外	区分外
酢酸n−ブチル	−	−	区分外	区分1	−	−	区分3	区分外
酢酸メトキシブチル								
シクロヘキサノン	区分2	区分2	区分2	区分1	区分1	区分2	区分外	区分外
二酸化ケイ素								

11−1、厚生労働省室内空気に関するガイドライン

参照−表 (JIS A1901「小型チャンバー法」)にて準拠

該当物質	厚生労働省基準値	オール・マイティ試験データ	
	濃度指数　μg/?	放散速度　μg/㎡・h	予測室内濃度μg/㎡
ホルムアルデヒド	100(0.08ppm)	測定限界(5)未満	3未満
アセトアルデヒド	48(0.03ppm)	14	11
トルエン	260(0.07ppm)	測定限界(15)未満	12未満
エチルベンゼン	3800(0.88ppm)	測定限界(20)未満	16未満
キシレン	870(0.20ppm)	測定限界(20)未満	16未満
スチレン	220(0.05ppm)	測定限界(15)未満	12未満
パラジクロロベンザン	240(0.04ppm)	測定限界(5)未満	4未満
クロルピリホス	1(0.07ppb)	使用していない	使用していない
フタル酸ジ−n−ブチル	220(0.02ppm)	使用していない	使用していない
テトラデカン	330(0.04ppm)	使用していない	使用していない
フタル酸ジ−2−エチルヘキシン	120(7.6ppb)	使用していない	使用していない
ダイアジノン	0．29(0.02ppb)	使用していない	使用していない
フェノブカルブ	33(3.8ppb)	使用していない	使用していない
TVOC(総揮発性有機化合物質)	暫定目標400	160	130

※上記、該当13物質(ホルムアルデヒド〜フェノブカルブ)は、使用しておりません。

※上記データは、試験条件下での基準値であり、実際の室内空気濃度を保証する値ではありません。
　使用場所・気温等の条件によっては、異なります。

※ホルムアルデヒド発散建築材料の告示対象外であり、建築基準法施行令第20条の7第4項に定められた建築材料(規制対象外のホルムアルデヒド発散建築材料:F☆☆☆☆)相当商品です。

【国土交通大臣第16号指定性能評価機関・化学物質評価研究機構】

化学物質等安全データシート(MSDS)　　(6－1)

[混合物質　(塗料用)]

整理番号　:MADS－M101118-1
作 成 日　:2010年11月18日
改 訂 日

1、化学物質等及び会社情報

製品名	オール･マイティ　　　(硬化剤)
会社名	株式会社　三都
住所	京都市南区吉祥院嶋野間詰町５７番地
担当者	諸本　和己
電話番号	075-671-8719
製品の種類	湿気硬化型シリコン･アクリル樹脂塗料用硬化剤
用途と使用上の制限	各種施設滑り防止塗装用

2、危険有害性の要約

[GHS分類]

引火性液体	区分　2	
急性毒性　(経口)	区分　外	
急性毒性　(経皮)	区分　外	
急性毒性(吸入･蒸気)	区分　3	
皮膚腐食性･刺激性	区分　2	
眼損傷性･眼刺激性	区分　2B	
呼吸器感作性	分類できない	
皮膚感作性	分類できない	
生殖細胞変異原性	区分　外	
発ガン性	区分　外	
生殖毒性	区分　外	
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分　1	･中枢神経系
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	分類できない	
呼引性呼吸器有害性	区分　外	
水生環境有害性　(急性)	区分　外	
水生環境有害性　(慢性)	分類できない	

[GHSラベル要素]　　[絵表示]

危　険

[危険有害性情報]
･引火性の高い液体及び蒸気

･吸入すると有害
･皮膚刺激
･眼への刺激

･臓器の障害･中枢神経系

[注意書き]

《予防策》

・容器を密閉しておくこと。
・熱/火花/裸火/高温体のような着火源から遠ざけること・禁煙。
・耐熱手袋/保護眼鏡/保護マスク/保護面/保護衣を着用すること。
・容器を接地すること/アースをとること
・防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
・火花を発生しない工具を使用すること。
・屋外または換気の良い場所のみで使用すること。
・保護手袋を着用すること。
・取扱い後はよく洗うこと。

・この製品を使用する時に飲食または喫煙をしないこと。
・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

《応急処置》

・火災の場合:炭酸ガス、泡または粉末消火器等を使用して消火すること。
・皮膚に付着した場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと/皮膚を流水・シャワーで洗うこと。
・気分が悪い時は、医者に連絡すること。
・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医者に連絡すること。
・目に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、
その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
取扱った後、手を洗うこと。特別処置が緊急に必要である。

《保管》

・涼しい所/換気の良い場所で保管すること。
・施錠して保管すること。

《廃棄》

・内容物/容器を都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3、組成・成分情報

[単一化学物質・混合物の区別]　　**混合物**

[成分及び含有量]

成　分　名	含有量%	CAS No	備　考
加水分解性ｼﾘﾙ基含有ｼﾘｺﾝ化合物	―	非公開	
酢酸n−ブチル	―	123−86−4	

4、応急処置

[吸入した場合]
・蒸気、ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時には、医師に連絡すること。
・蒸気、ガスなどを大量に吸い込んで、気分が悪くなった場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。
・呼吸が不規則か、止まってる場合には人工呼吸を行う。
・直ちに医師の手当てを受けること。

[皮膚に付着した場合]
・付着物を布にて素早く拭き取る。
・汚染された衣類をとりのぞくこと。
・大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して充分に洗い落とす。溶剤・シンナーは使用しないこと。
・外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。

[眼に入った場合]
・直ちに大量の洗浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
まぶたの裏まで完全に洗うこと。
・直ちに医師に連絡すること。

[飲み込んだ場合]
・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
・嘔吐物は飲み込ませないこと。
・医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5、火災時の措置

[使用可能消火器]
・炭酸ガス消火器
・泡消火器
・粉末消火器

[消火方法]
・適切な保護具(耐熱性着衣など)を着用する。
・可熱性のものを周囲から素早く取り除く。
・指定の消火器を使用すること。
・高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。
・消火活動は風上より行う。

6、漏出時の措置

[人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置]
・作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
・周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
・付近の着火源、高温体および付近の可熱物を素早く取り除く。
・着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

[環境に対する注意事項]
・河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

[封じ込みおよび浄化の方法・機材]
・漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。
・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
・衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
・乾燥砂、土、その他の不燃性なものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

7、取り扱いおよび保管上の注意

[取り扱い上の注意]
・換気の良い場所で取り扱う。容器はその都度密封する。
・周囲で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
・工具は火花防止型のものを使用する。使用済みウエス、塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまで水に漬けておく。
・皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入らぬよう保護具を着用する。
・取扱い後は、手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋などの汚染保護具を持ち込まない。
・密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を付けて作業すること。

[保管上の注意]
・日光の直射を避ける。風通しの良いところに保管する。 火気、熱源から遠ざけて保管する
・盗難防止のために施錠保管する。
・子供の手の届かないところに保管する。

8、暴露防止及び人に対する保護措置

管理濃度・許容濃度

成 分 名	管理濃度	許容濃度
加水分解性ｼﾘﾙ基含有ｼﾘｺﾝ化合物		
酢酸n−ブチル	150ppm	150ppm

[設備対策]
・取扱設備は防爆型を使用する。
・排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
・液体の輸送、汲み取り、撹拌等の装置についてはアースをとるように設備すること。
・取扱場所の近くには、高温、発火源となるようなものが置かれないような設備とすること。
・屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用する等作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。
・タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付けること。
[呼吸器の保護具]
・有機ガス用防毒マスクを着用する。
・密閉された場所では送気マスクを着用する。
[手の保護具]
・有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
[目の保護具]
・取扱いには保護メガネを着用すること。
[皮膚及び身体の保護具]
・取扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。
[その他]
・静電塗装作業を行う場合には、帯電防止服、静電靴を着用する。

9、物理的および化学的物質

・性状・状態	液体
・色	無色透明
・臭い	溶剤臭
・沸点	126．0℃〜126．0℃
・引火点	22．0℃
・爆発範囲	1．7%〜7．6%
・蒸気圧	Pa
・蒸気密度	情報なし
・比重	1．03±0．02
・溶解度	水に難溶　有機溶剤に易溶
・n−オクタノール/水分配系数	データなし
・自然発火温度	425℃
・分解温度	情報なし

10、安定性および反応性

安定性　　常温付近では危険な反応はしない。

12、環境影響情報

・生態毒性　:情報なし
・残留性・分解性　:情報なし
・生態蓄積性　:情報なし
・土壌中の移動性　:情報なし
漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与えるおそれがあるので、取扱いには注意する。
特に、製品や洗浄液が、地面・川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13、廃棄上の注意

残余廃棄物
・廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約(マニフェスト)をして処理をする。
・容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
・廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律、関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。
・廃塗料などを焼却処理する場合には、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。または焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。ただしダイオキシンなどの有害ガスが発生するおそれがある場合には許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び処理すること。
・特別管理産業廃棄物(廃油)に該当するので、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

汚染容器および包装
・空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
・許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

14、輸送上の注意

・取扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。
・内容の漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

国内規制
・国連番号　1263
・指針番号　128
・陸上輸送　消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。
　荷造り人は運送者に運搬注意書(イエローカード等)を交付する。
・海上輸送　船舶安全法に定められるところに従うこと。
・航空輸送　航空法に定められるところに従うこと。

国連規制
・国連番号　1263
・国連輸送名　塗料 (PAINT)
・国連分類　クラス3 (引火性液体)
・容器等級　容器等級 Ⅱ

15、適用法令

・消防法　:危険物第四類　第二石油類
・労働安全衛生法　:危険物(引火性の物)
・有機溶剤中毒予防法　:第二種有機溶剤
・化学物質管理促進法　:該当しない

16、その他の情報

参考文献
・MSDS用物質データベース(日本塗料工業会)
・製品評価技術基盤機構「GHS分類結果」
・危険防災救急便覧
・GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック(混合物・塗料用) (日本塗料工業会)

注　意
本データシートは、作成時または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。
また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。
本製品を当社が認めた材料以外のものと混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。

11、有害性情報

成分の健康有害性情報(危険有害物質を対象)

	急性毒性<経口>	急性毒性<経皮>	急性毒性<吸入蒸気>	皮膚腐食性・刺激性	眼損傷性・眼刺激性	呼吸器感作性	皮膚感作性
加水分解性シリル							
基含シリコン化合物							
酢酸n－ブチル	区分 外	区分 外	区分 3	区分 2	区分 2B	－	－

	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性	標的臓器<単回暴露>	標的臓器<反服暴露>	呼引性呼吸器有害性	水生環境毒性<急性>	水生環境毒性<慢性>
加水分解性シリル								
基含シリコン化合物								
酢酸n－ブチル	－	－	区分 外	区分 1	－	－	区分 3	区分 外

11－1、厚生労働省室内空気に関するガイドライン

参照-表　(JIS A1901「小型チャンバー法」)にて準拠

該当物質	厚生労働省基準値	オール・マイティ試験データ	
	濃度指数　μg/m³	放散速度　μg/m²・h	予測室内濃度μg/m³
ホルムアルデヒド	100(0.08ppm)	測定限界(5)未満	3未満
アセトアルデヒド	48(0.03ppm)	14	11
トルエン	260(0.07ppm)	測定限界(15)未満	12未満
エチルベンゼン	3800(0.88ppm)	測定限界(20)未満	16未満
キシレン	870(0.20ppm)	測定限界(20)未満	16未満
スチレン	220(0.05ppm)	測定限界(15)未満	12未満
パラジクロロベンザン	240(0.04ppm)	測定限界(5)未満	4未満
クロルピリホス	1(0.07ppb)	使用していない	使用していない
フタル酸ジ-n-ブチル	220(0.02ppm)	使用していない	使用していない
テトラデカン	330(0.04ppm)	使用していない	使用していない
フタル酸ジ-2-エチルヘキシン	120(7.6ppb)	使用していない	使用していない
ダイアジノン	0．29(0.02ppb)	使用していない	使用していない
フェノブカルブ	33(3.8ppb)	使用していない	使用していない
TVOC(総揮発性有機化合物質	暫定目標400	160	130

※上記、該当13物質(ホルムアルデヒド～フェノブカルブ)は、使用しておりません。
※上記データは、試験条件下での基準値であり、実際の室内空気濃度を保証する値ではありません。
　使用場所・気温等の条件によっては、異なります。

※ホルムアルデヒド発散建築材料の告示対象外であり、建築基準法施行令第20条の7第4項に定められた建築材料(規制対象外のホルムアルデヒド発散建築材料:F☆☆☆☆)相当商品です。
【国土交通大臣第16号指定性能評価機関・化学物質評価研究機構】